

2020年6月17日

学生諸君へ

校長 田村 隆弘

『一緒に乗り越えようー日常への段階的な復帰にあたってー』

- はじめに

COVID-19によって、いろんなイベントや大会が中止になりました。これまで準備してきたことや練習してきたことが何もかも吹っ飛んだような気持ちにさせられます。でも、予想し難いトラブルで夢が砕かれるのは人生の常。今、君の胸が痛み、涙が流れるのは、君が一所懸命、夢に向かって生きてきた証拠です。人の心や体は、鍛えられて強くなります。筋肉は破壊されることで前よりも強靱に復活します。筋トシの世界でいう超回復。心だって鍛えられて傷つき、そして、より強くなり、そして、他人の心の痛みが分かるようになります。奪われた目前の夢は諦めなければならぬかも知れませんが、新しい夢は何度でも追いかけることが出来ます。いや、むしろ夢を何度でも追いかける強さが必要です。

- 日常への段階的な復帰

今、学校でも、先生達が全力でこの難局を乗り越えるための方法を模索しています。「命を最大限大切にしながら、段階的に日常を取り戻す」という方針の中で、君たちの近況と将来を心配して、情報を共有しつつ活路を見いだすための議論を重ねています。

先般(6/15日)、学生課から最新版の行事予定を発表しました。「9月からの面接授業の全面再開を目指して段階的に復帰して行く」という方針に基づき作成したものです。まずは、専攻科での特別研究や実験、本科でも実験実習やホームルーム等、安全な環境を整えることが出来るものから登校して頂きます。教務主事からのお知らせ「遠隔授業の延長について(第3報)(6/10日)」にあります諸注意を守って、少しずつ日常を取り戻すようご協力ください。遠隔授業は、現在は特別な対応ですが、情報ネットワークの活用は、今後は、むしろ当たり前の社会になるでしょう。これからの社会を生きる君たちは、高専の卒業生として、このネットワーク環境を“模範的に”使いこなす人、ネットワーク社会をリードする人になってください。

学生主事からの「各種行事の中止について(6/12日)」にありますように、行事日程の調整の中で、例年行われていたイベントを、やむを得ず諦めなければ

ならないものが出てきました。学寮についても寮務主事が中心となって、綿密な安全対策を検討していますが、段階的な復帰にあたって、あるいは面接授業再開後も特に寮生には様々な負荷を強いることを心配しています。いずれにせよ、これまでの慣例とは異なる対応や負担が求められますが、ぜひ、問題は一つずつ解決するように、また、今出来ることを先生と一緒に考えてください。

「知、徳、体」バランス良く育むことが大切ということで、課外活動や運動についても安全な環境を整えることが出来る場合には、校内施設の利用を認めています。図書館についても6月1日から利用可能としました。ただ、これからの季節、通学に際しては、感染症対策だけでなく熱中症対策についても注意してください。

- この危機を乗り越え、この機に学ぶ

これからも、人生、山あり谷あり、大波、小波を乗り越えて行かなくてはなりません。しかし、常に全力疾走、全力投球していたら、強くなる前に壊れてしまいます。大波、小波を上手く乗り越えて行くには、それぞれに応じた体力の使い方をすることが大切です。今はまさに歴史的な感染症という超特大の荒波の中、経験したことがない状況の中で、これまで使ったことも無いようなツールや知力体力を全て駆使して、とにかく生き抜くこと、乗り越えることが大切です。しかし、くれぐれも一人で頑張りすぎないでください。自分だけの力ではなく、友達同士、先生、そして、身近な人と力を合わせて、手は繋いではいけないかもしれないけど、心を繋いで、マスク越しに声を掛け合って、ともかくにも乗り越えましょう。大きな波を乗り越えることで、「この体験から何かを学び取るぞ」と気概をもつことも大切です。福井高専は、学校として、今回の経験を教育の高度化に結びつけたいと思っています。ここで模索し蓄積した遠隔授業のノウハウは、きっと君たちの自学自習を支援するツールとして役立てたいと思います。

- おわりに

必ず日常は取り戻せます。しかし、これまでとは異なる日常になることも十分予想されます。先のメッセージでお伝えした“まず生きる”の次は、“より良く生きる”です。この、“より良く”の意味を考えながら行動すること、“実行する”ことが大切です。今おかれた状況の中に、ポジティブな要素を見いだしましょう。本校は、より良く生きようとする君を、粘り強く応援します。